

梅颯のライフコースにおける家政教育の研究 (I)

○ 遠藤マツエ*、久富歌子*
 (* 埼玉大学)

目的 今日、生活の多様化に伴い、総合的に生活の質を追求する社会的要望が増大し、それに伴う人間性の育成が重要な課題になっている。その課題は、時代、人種、社会、階層、性、年齢などにより異なるが、様々な環境の中で人間が生きる実態を、家政思想とその実践について究明し、いかに生きるべきかを究明することはきわめて重要である。本研究は、時代を越えて人間形成の基盤をなす家庭教育について、近世にさかのぼり、梅颯のライフコース(1760~1843年)を探ることによって、当時の家政教育の実態分析を試みた。

方法 梅颯(梅颯は号、本名頼静子、夫は頼春水、息子は久太郎、後の山陽)の父『飯岡義斎』、『夜鶴草』、『春水留守訓』、『梅颯日記』などの文献を用いて、まず梅颯のライフコースを作成した。つづいて梅颯の生きた時代相、家族関係、家政内容さらに生活問題を分析して、梅颯の成長家族期と衰退家族期の家政教育内容の分析を行った。

結果 梅颯は、宝暦10年8月29日出生静子と命名(父・飯岡義斎、母・木島氏)、安永8年・静子結婚20歳夫春水35歳、翌年長男山陽誕生、天命元年・夫春水広島藩儒(静子22歳)『春水日記』を書き始める、天命2年夏・父義斎は娘静子に『夜鶴草』を春水に『老語草』を贈る、翌年・春水江戸勤番、天命4年・静子の母没(静子25歳)、翌年『梅颯日記』を書き始める、天命8年・山陽9歳藩学問所に入塾、寛政元年・静子の父没73歳(静子30歳)、寛政9年・山陽18歳昌平黌に入塾(静子38歳)、翌年・山陽結婚20歳妻淳子15歳、寛政11年・夫春水6回目江戸詰め・山陽脱走後幽室屏居、享和元年・山陽離縁・山陽『日本外史』の初稿緒につく(静子42歳)、享和3年・山陽24歳幽室をとかれる、文化13年・夫春水没71歳(静子57歳)、文政10年・山陽『日本外史』を松平定信に献じる(静子68歳)、天保3年・山陽没53歳(静子73歳)、天保14年・静子没84歳。当時の平均寿命は30歳代である。